

令和3年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	東広島市立三ツ城小学校	校長	向井 秀則	生徒指導主事	山村 聡一郎
-----	-------------	----	-------	--------	--------

**取組事例名** 『つながりを生むあいさつ運動』


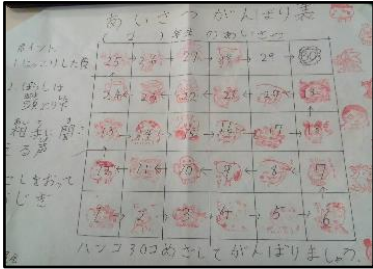




**取組における育てたい資質・能力**

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	1	「実行力」	3	「自己理解」	2

**取組のねらい**

あいさつを通して、互いに知り合い、つながりをつくる。また、あいさつを交わし合う中で、コミュニケーションを図り、つながりを深める。さらに、取組を行う中で、自己存在感を高める。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 【キーワード 委員会から全校での取組へ発展】
----------	-----------------------------------

<p>①生活委員会による継続的な活動「あいさつ運動」      ②生活目標に応じた生活委員会の取組「あいさつがんばり表」</p>   <p>③学年等での取組の発展</p> <p>1年生「学年下校時でのあいさつの評価」                  2年生「学年スペースでのあいさつ運動」                  3年生「学年スペースでのあいさつ運動」                  4年生「帰りの会での係による振り返り」                  5年生「朝の会でのあいさつの振り返り」                  6年生「全校に向けたあいさつ運動」                  専科等「教室や職員室入室時の指導」</p>    	<p>①週のスタートはあいさつから 毎週月曜日の朝に生活委員会によるあいさつ運動を行い、休み明けの疲れた気持ちを元気なあいさつでかき消すようにした。</p> <p>②あいさつチェックで意欲アップ よいあいさつの基準を示し、学年ごとに評価することで、各自のあいさつを改善させるようにした。</p> <p>③学年ごとの取組へレベルアップ あいさつについての月間生活目標を設定した際に、各学年のあいさつに対する目標や取組を考えさせることで、児童の課題や発達段階に応じたあいさつを広げさせた。</p>
--	--

**取組の成果と課題**

児童によるアンケートの結果、あいさつができていると肯定的に答える児童は、前期は84%、後期は83%であった。

○あいさつへの取組を行う中で、児童の明るいあいさつが増えた。また、学年ごとにあいさつの目標や取組を考えてもらうことで、主体的な活動へつながり、あいさつに対して意欲的になった。

△あいさつチェックは、低学年への意欲的な取組に効果的であったが、基準が不明瞭な部分もあり、改善が必要であった。また、高学年への働きかけの充実が課題であった。さらに、学年ごとの目標や取組が有効だったため、児童に目的意識をしっかりとめさせることも今後の課題である。